

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月8日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	中切 幹男	元萩原南中学校長
委員	皆越 眞佐代	NPO飛騨小坂200滝
	向野 優子	NPOみらいる理事長
	河合 正博	下呂市観光商工部長
	森本 翔太郎	馬瀬建設株式会社 専務取締役
	朽本 達治	朽本農園
	山下 久美子	下呂看護専門学校長
	滝 景子	水明館 若女将 (欠席)
	長尾 伴文	ぎふ夢教育応援隊
	熊崎 秀樹	育友会長 (欠席)
学校側		
	佐藤 尚史	校長
	小田 雅人	教頭
	可知 嘉文	教務主任
	打保 圭史	生徒指導主事
	上田 界堂	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

(1) 意見交流(益田清風高校の未来について)

意見1: 下呂市の子ども的人数が減っている現状の中で、市外から入学する生徒を増やす必要がある。そのためには、益田清風高校が魅力ある特色を増やし、もっとアピールすべきである。

意見2: コロナ禍後は、インバウンドが再び増加すると思います。そこで、英語教育の中で日常英会話力を付けることに特化した授業を行い、外国人観光が集まるようなイベントなどに参加し、下呂市をアピールする発表などを経験させる取り組みをしたらどうか。それらの取組を世間にアピールすることで、益田清風高校の魅力が上がると思われる。また、介護実習室やキッチンラボなど、すばらしい施設がたくさんあるのでもっとアピールするべきである。

意見3: 授業などでICTが活用されているが、あくまでも媒体が変わっただけで本質は変わっていないことがある。もう一步進んで、生徒の困り感を把握し、個々に対応できるようなICT活用ができるとよい。また、ICT環境として、現状の机のサイズでは、タブレットや教科書などを同時に使用するには小さい。普通科については、

国内の難関大学というより、地元の岐阜大や名大など地元の難関大学を目指すよう具体的な目標を示し、その成果をアピールしたらどうか。

- 意見4：ICT活用は進んでいる中で、先生方がそれに対応していくことに苦慮しているのではないかと。画像などを見せることが簡単にできるようになったが、見せているだけではだめで、その先があるとさらによい。総合学科の取組は、目標を定め、専門性を高めるために進学もしており、評価している。下呂市は観光地としてあまり魅力がないと言われることがあるが、見方を変えれば魅力的な資源は多くある。また、下呂市内は高速道路が通っていないので物流の面からは企業誘致には不利だといわれるが、企業の方に聞いてみると実際は関係ないといった意見もある。生徒たちにあらゆる視点で地元の魅力を発掘してもらい、それをアピールするような取組ができるとよい。
- 意見5：卒業生の中には、多方面で活躍している方がいるので、そのような方々と生徒が交流できるとよい。人口を増やすことは学校ではなく行政がやることであり、学校としては学校の魅力を世間にアピールすればよい。他の高校がやっていないことをやると注目されやすいので、とびぬけたアイデアを出し合って、それを継続的に実行できるのであればやってみるのもよいのではないかと。また、総合学科の観光系列は、幅広く学んでいると感じるので、もう少し内容を絞ってもよいのではないかと。生活面では、携帯電話をうまく活用することを学ばせて、校内の使用を制限しない方がよいのではないかと。
- 意見6：進路先を決めるための調査手段として、学校のホームページを見ている中学生が多いので、ホームページを充実させ、更新頻度を上げるなどの取組が必要である。高校の魅力を上げるために学習環境を整えることも必要である。例えば、生徒同士が交流できるラウンジルームや個別面談の場所としてのカウンセリングルームなどを設置したらどうか。また、在校生の意見を取り入れることも検討したらどうか。市外からの入学生に対して、生活の場を安価で提供すると保護者も安心されるので、寮があるとよい。
- 意見7：下呂市は人口が減少しているが、今後は移住者が増え、人口が増加していくと実感している。下呂という地を生かして、行政からも協力も仰ぎ、温泉付きの学生寮を作るようなことができないかと。校内にあるキッチンラボの設備を活かし、食に関する分野の取組を挙げたらどうか。また、学校運営協議会で生徒の意見が聞ける場面があるとよいのではないかと。
- 意見8：マスコミの影響力は大きいので、うまく活用できるとよい。委員と生徒との座談会や卒業生と生徒の交流会といった機会をつくれるとよい。益田清風高校がなくなると下呂市の子どもたちに不利益が生じるので、存続していくために努めていきたい。
- 意見9：昔は、勉強して少しでもよい大学に入り、大企業に就職するのが素晴らしいという考え方を持つ保護者が多かったが、現在は、コミュニケーション能力を高め、生きる力を身に付けることを望む傾向に変わってきており、企業もそのような人材を必要としている。そして入社後も学び続ける姿勢であることが大切である。

6 会議のまとめ

第2回の学校運営協議会では、下呂市の子どもたちの年齢別人数の推移を示し、子どもたちの人数が激減していく中で、5年後、10年後の益田清風高校の未来像について、各委員から忌憚のない意見をいただき、長期的な学校運営の参考とした。